

井の頭池の
生きもの

秋冬の水鳥

秋から冬の井の頭池では、一年中生息している留鳥と、北国や高地で
子育てして冬越しのために渡って来る冬鳥が見られます。
近隣の水辺と行き来しているので、見られる数が日ごとに変動します。

留鳥

一年中
生息している鳥



アオサギ Grey Heron



ゴイサギ Black-crowned Night Heron



コサギ Little Egret



バン Common Moorhen



カルガモ
Eastern Spot-billed Duck



カイツブリ
Little Grebe



カワウ (繁殖羽)
Great Cormorant



ハクセキレイ
White Wagtail



カワセミ
Common Kingfisher

冬鳥

冬越しのために
渡ってくる鳥



オオバン
Eurasian Coot



キンクロハジロ
Tufted Duck



ホシハジロ
Common Pochard



ヒドリガモ
Eurasian Wigeon



マガモ Mallard



コガモ Common Teal

キセキレイ Grey Wagtail

水鳥ウォッチングポイント

こんな場所を探してみよう！



木の枝、やぶ

サギ類とカワウは枝に止まって休息します。夜行性のゴイサギは、常緑樹の茂みや草やぶに潜んでいます。

浅場で休息、羽づくろい

浅い場所や陸地、杭などに立ち、休息や羽づくろいをします。コガモは浅場でよく見られます。

浅場で採食

浅場はカモ類やオオバンの食事場所。カヤツリグサ類などの湿生植物のたねや茎を食べています。

橋の周辺

池の透明度が良いときに橋から見下ろすと、カイツブリやキンクロハジロが潜水して水中で行動するところを見ることができます。

広い水面

水鳥が潜水して水中の食物をとる様子を観察できます。オオバンや一部のカモ類は池底のツツイトモなどをついばみます。カイツブリは小魚やエビ類、カワウはギンブナなどの大きな魚を捕らえます。

かいぼりのとき

かいぼりのときは、排水や魚取りなどの工程に応じて、集まってくる鳥や、よそへ移動していく鳥など、さまざまな場面を観察できます。かいぼりが終わると、何事もなかったように元の生活に戻ります。

カルガモやコガモ

水際の泥地に採食しに来ます。

カワウ

池が浅くなり魚を捕りやすくなると集まってきますが、潜水できなくなるというなくなります。

サギ類

浅く狭くなった水面や、滞筋（水路）に集まって魚をねらいます。

カワセミ

かいぼりをしていないときと羽数は変わらず、水のある箇所で見られます。

カイツブリやキンクロハジロ

水位が下がり始めるといなくなります。

枝やロープ柵

カワセミはロープ柵や水面上の枝にとまって魚やエビをねらいます。チーッという高い声を頼りに探してみましよう。

水鳥に関する取組

浅場の整備

池底の土砂を岸边に寄せて段を造り、湿生植物が生育できる浅い場所を整備しています。作業には

一般市民や井の頭かいぼり隊などのボランティアが協力しました。整備後は定期的な刈り取りなどをして環境を維持しています。



整備作業をするボランティアたち

外来魚防除

大勢の市民や行政が協力してかいぼりを行いました。在来魚やエビが回復し、カイツブリの繁殖数が増加しています。3回のかいぼりによってオオクチバス、ブルーギルは根絶されたと思われます。

回復した在来魚やエビ類



モニタリング

井の頭かいぼり隊が月2回調査を行い、水鳥の種類と羽数を記録しています。



モニタリングの様子



エサやり不要

野生の鳥類は、自然にあるものを食べて自力で生活しています。



巣に近づかないで

抱卵中の親鳥は、怖くても逃げ出せません。近距離からの観察や撮影はご遠慮ください。

最新情報はこちら

自然の様子、イベント案内、モニタリング結果などを公開しています。

井の頭恩賜公園 Inokashira Park 公式ホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/ji/musho/seibuk/inokashira/>

井の頭公園 公式

検索

